

『地域からの農業再興』

蔦谷栄一 著

これは警世悲願の書で、

要素がある。

ある。日本農業を取り巻く困難を基軸として世界と日本の今を俯瞰し、過去の遡及し、未来を憂えているのである。

内憂もある。後継者無き高齢化と所得低減が負のスパイラル運動を加速化させている。行動者でもある著者の丁寧な実地踏査は、全国各地に及び、

そこに日本農業再興の道すじがある。それらを崩壊させてしまおう動きに対するアンチテーゼとしての期待も込められているようだ。

農業と工業との文明的相克関係を解き明かし、

その地域の悶えと希望を

本来、科学技術成果たる現代の工業を

市場原理主義と共生思想との対峙の実相を示す。最大限

の利潤追求を至上命題とする市場原理主義の理論

性を高める。市場原理主義の軛からの解放こそが

現場を発奮させる 農業再建への道筋

の利潤追求を至上命題とする市場原理主義の理論

と実践が21世紀を席巻しようとしている。TPP

私たちは、工業化・都市化の過程で失った人と人との共生関係を取り戻さねば、物と心の調和ある真の豊かさを実現できず、幸せな社会もありません。大いに啓発され、発奮させられる文字通りの良書であった。(黒田義人・JAえひめ南代表理事組合長)

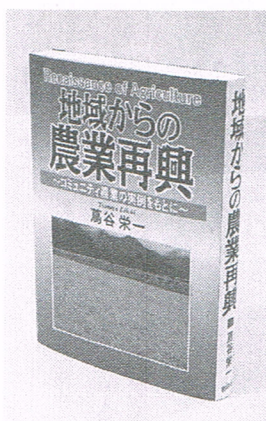
もその一翼であり、この国の農業及び農村はますます危険存亡の秋(とき)

ネットワーキングなどさまざまな結びつきを基盤とするコミュニティ農業には

必要なのである。

地域特性、多様性、循環性、持続性などの関係諸

ある真の豊かさを実現できず、幸せな社会もありません。大いに啓発され、発奮させられる文字通りの良書であった。(黒田義人・JAえひめ南代表理事組合長)



創森社 本体1600円+税